

平成24年 第22回帯広市教育委員会会議録

1. 平成24年12月19日水曜日 17時 ～ 18時20分
帯広市教育委員会会議を帯広市役所 教育委員会室に招集する。

2. 本日の出席委員

教育委員長	田 中 厚 一
教育委員	市之川 敦 子
教育委員	門 屋 充 郎
教育委員	伊 藤 成 昭
教 育 長	八 鍬 祐 子

3. 本日の議事日程

- | | |
|-------|--|
| 日程第 1 | 会議録署名委員の指名について |
| 日程第 2 | 議案第 64 号 平成 24 年度帯広市立高等学校教職員表彰受賞者の決定について |
| 日程第 3 | 報告第 20 号 ジュニア文芸第 3 号審査結果について |
| 日程第 4 | その他 (1) 帯広市議会 12 月定例会の報告について |
| | その他 (2) 教育懇談会の概要報告について |
| | その他 (3) 平成 24 年度全国学力・学習状況調査について |
| | その他 (4) 今後の事業予定について |
| | その他 (5) 寄附受納について |
| | その他 |
| 日程第 5 | 議案第 65 号 教職員の処分内申について【秘密会】 |

田中委員長

これから、平成24年第22回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

出席委員は全員であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(野原課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、市之川委員及び門屋委員を指名いたします。

日程第2、議案第64号、平成24年度帯広市立高等学校教職員表彰受賞者の決定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

須貝 部長

議案第64号、平成24年度帯広市立高等学校教職員表彰受賞者の決定についてご説明申し上げます。本案は帯広市立高等学校教職員表彰規則により、毎年12月1日現在、教職員として30年以上勤務され、その勤務期間のうち市の教職員として5年以上勤務し、勤務成績が優良な方が対象となります。平成24年度の対象者は、帯広南商業高等学校教諭、吉見充彦外2名でございます。以上よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

議案第64号、平成24年度帯広市立高等学校教職員表彰受賞者の決定については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、議案第64号は決定されました。

日程第3、報告第20号、ジュニア文芸第3号審査結果についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

大久保部長

報告20号、ジュニア文芸第3号審査結果についてご説明申し上げます。議案書3ページでございます。本件はジュニア文芸実行委員会において慎重に審議され、決定された受賞作品をご報告するものでございます。受賞作品は4ページ、1. 受賞作品にお示ししておりますとおり、最優秀賞は、小説「あの日の空は美しかった」緑園中学校2年生、廣瀬華織さん、優秀賞には、小説「夢を奏でる」第一中学校3年生、西山綾菜さん、戯曲「勇者の花」豊成小学校6年生、田所希梨さん、詩「命」豊成小学校5年生、田所和士さんの3名に決定しました。今回の応募作品数は148件、このうち最優秀賞、優秀賞を含む41作品が入選となっております。5ページか

ら6ページにかけて、入選者の作品名、氏名、学校名を記載してご
ざいます。これらの入選作品は平成25年2月発刊予定のジュニア
文芸第3号に掲載されます。なお、最優秀賞等の贈呈式は平成25
年2月24日に帯広市図書館で執り行う予定でございます。以上で
ございます。

田中委員長
市之川委員

これから質疑に入ります。

今年第3号ということですが、前回と比較して応募者数、部
門の傾向の違いなどがありましたら教えてください。

吉田 館長

過日も一度ご報告させていただいておりますけれど、ジュニア文
芸は今回小説が63点と圧倒的に多かったことと、優秀賞を取った
戯曲がございまして、戯曲は今回初めての応募でしたが、かなり優
秀な作品でした。今回賞を取りました4人は、いずれもジュニア文
芸の第1号2号で育ってきている子どもたちで、1号2号で力をつ
けた子どもたちが多かったという実行委員長のコメントでございま
した。

門屋 委員

こういうものを出すというのは、個人的な力なのか学校の指導に
関係があるのか教えていただければと思います。

田中委員長
吉田 館長

これは印象で構わないと思いますのでいかかでしょうか。

大変失礼な言い方を申し上げれば、学校で取りまとめて応募して
くださったのに、残念ながら誰も入らなかったという学校が何校か
ございまして、学校の方で積極的にPRしてくださっているのです
が、書き方の指導にまでは至っていないという状況があるかと思
います。ただ、書きたいという子どもたちに働きかけてくださって
いることは間違いないと思います。

田中委員長

他になれば質疑を終結し、本件を終了いたします。

日程第4、その他に入ります。

その他(1)帯広市議会12月定例会の報告についてを議題とい
たします。

植松調整監

12月3日から17日まで開催されました、12月定例市議会に
おける学校教育部に係わる質疑について概要をご報告させていた
だきます。議案書の7ページでございます。今回一般質問5人の議員
からご質問がございました。主な概要についてご報告いたします。
はじめに、熊木議員から、学校適正配置基本計画の今後の考え方
についてのご質問があり、学校は地域コミュニティの中心的存在でも
あり、災害時の避難場所としての重要な役割も果たしていること、
また、児童生徒数の将来推計、通学条件、学校施設の改修計画など、
個々の学校の状況や地域とともに長年にわたり歩んできた学校の歴
史を踏まえることも重要であることから、地域住民の方々に丁寧に
説明し、理解をいただけるよう次期適正配置計画を策定していく旨
の答弁をしております。次に編田議員から新学校給食調理場につい

て、現在進めている新学校給食調理場の計画を中止する考えはないのかとのご質問があり、既に実施設計に入っていることから、一日も早く進めていく旨の答弁をしております。次に楢山議員から、北海道教育委員会のチャレンジテストは繰り返すことで勉強嫌いを作り、学力低下を招く可能性があるかと考えるがどうかとのご質問があり、チャレンジテストは教師の授業改善や家庭学習の充実に寄与し、指導者が適切に活用することで学習意欲が高まるものと考えているとの答弁をしております。また、教育懇談会3会場に参加したが、教育委員の皆さんがこれまで以上に積極的に意見や自分の考えを述べられ、積極的に市民との意見交換を行っており、大変素晴らしい懇談会であった。保護者や市民が参加できる、こうした機会にこそ、学力に関する意見交換を行っていくべきではないかとのご質問に対して、田中教育委員長から学力向上はもとより今後も様々なテーマで意見交換を行っていく旨の答弁をしております。次に高田議員から、いじめの現状認識についてのご質問があり、いじめの認知件数は平成24年8月末現在で小学校56件、中学校26件の合計82件であり、形態として、冷やかし、からかい、悪口が最も多く、本人以外気づきにくいいじめが依然として多い傾向にある旨の答弁をしております。次に鈴木議員から、新たな学校給食調理場において再生可能エネルギー導入の考え方についてのご質問があり、日照率が高い地域特性を生かした太陽エネルギーを利用した太陽熱給湯と太陽光発電設備を採用していること、地域資源循環の観点から、将来的なバイオガス活用を視野に検討を進めている旨の答弁をしております。学校教育部に関する報告は以上であります。

敦賀調整監

引き続き生涯学習部に係ります質疑についてご報告させていただきます。生涯学習部につきましては、一般質問で鈴木正孝議員からご質問がございました。質問項目は7ページ右下にございますように、スポーツに関するご質問でございます。1の帯広市のスポーツ推進の考えでは、昨年8月、スポーツ推進法が全面改正され、スポーツ基本法が制定されております。これに基づき本年3月、国においてスポーツ推進計画が策定されております。こうしたことから、本市におけるスポーツの推進計画の策定を求める内容でご質問がございました。本市においては、昭和63年の健康スポーツ都市宣言の理念に基づき、帯広市教育基本計画において、スポーツ推進の方向性を位置づけ、取り組んでいることを答弁しましたが、議員からは、独立したスポーツ推進計画を策定するよう重ねて要望があったものでございます。また、2の帯広市のスポーツ施設整備・運営・管理に関してでは、総合体育館の建て替えについて、総合計画や教育基本計画に位置づけており、また、市長公約でもあることから、建設計画の策定など、具体的な取り組みを進めるようご意見がござ

いました。これに対しては、市長から建設に向けて取り組んでまいりたいと答弁したところでございます。以上でございます。

田中委員長
各委員
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し本件を終了します。

その他(2)教育懇談会の概要報告についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

須貝 部長

平成24年度教育懇談会の開催経過の概要についてご報告申し上げます。議案書9ページをご覧くださいと思います。はじめに1. 開催日程及び参加者数でございますが、11月18日(日)から11月30日(金)の期間中、市内コミュニティセンターなど6カ所で開催し、合計127名の出席をいただきました。昨年度の参加者数は130名でありましたので、大きな増減はございませんでした。出席者は学校関係者のほか、PTA関係者や地域でボランティア活動をされている方の出席が多くあったところがございます。次に開催内容については、進行を3部構成として、第1部は子どもたちの安全安心、第2部は地域で広がる生涯学習、それぞれテーマを設けて情報提供と意見交換を行いました。第3部では教育全般に関する意見交換を行ったところがございます。次に3. 主な意見でございますが、第1部の子どもたちの安全安心では、いじめの認知件数の推移、いじめに関するアンケート、いじめと不登校の関係などについてのご質問、ご意見をいただいたほか、徳育や交通安全などについてご意見をいただきました。第2部の地域で広がる生涯学習では、各地区での生涯学習活動の状況や活動の担い手の状況、情報発信の方法などについてご意見をいただきました。第3部の教育全般に関する意見交換では、新学校給食調理場の建設方式や学校給食や食育の取り組みに関するご質問、ご意見のほか、学校施設の修繕、教育懇談会の開催方法や参加者等についてのご意見をいただいたところがございます。次のページをご覧くださいと思います。4. アンケートの概要についてでございますが、54名の方から提出いただき回収率は42.5%となっております。アンケートの結果について、開催をどこで知ったかという問いに対しまして、教職員やPTAの方につきましては、校長会や学校を通して知った方が多く、地域の方は広報おびひろや町内会の回覧で知った方が多くございました。開催時期、開催時間につきましては、適当と回答された方が8割以上おられる一方で、雪の心配のない時期や午前の開催を希望するといったご意見、また、農業の方からは今時期の開催は参加が難しいというご意見もいただいたところがございます。各テーマについて、教育委員会からの説明内容については、第1部、第2部ともにほとんどの方が分かったという回答でございました。テー

マの設定につきましても、ほとんどの方から適切と回答をいただいております。第1部に対するご意見は、学校施設の安全対策や通学路の安全確保、いじめの実例を知りたいというご意見がございました。第2部に対するご意見は、生涯学習分野について知る機会が少ないので良い機会である。情報が各家庭まで周知されていない。担い手の育成方法を考えるべきところのご意見があったところがございます。次回のテーマにつきましては、学力向上、子どもの体力、防災教育、学校給食、生涯学習・各課の取り組みについてテーマにさせていただきたいというご意見もございました。参加した感想につきましては、一般の方や保護者の参加が少ない。意見交換の時間が短い。様々な意見を聞いて良かったなどのご意見がございました。なお、11ページから13ページに教育懇談会でいただいたご質問・ご意見とそれに対します回答などの概要を一覧にまとめてございますので、参考としてご覧いただきたいと思います。報告は以上でございます。

田中委員長
田中委員長

これから質疑に入ります。

教育委員の皆さんは分担して各会場に出席していただいておりますので、ご感想も含めて何かお話しがあればお願いします。

伊藤 委員

感想になりますけれど、年々関心度が高まってきていると実感しました。人数というよりも、質問内容等について深さのある、内容のある質問があったので、関心度が上がってきていると感じました。例えば、生涯学習部でよく出てくる話題としては、担い手がいなくて困っているという話が昨年もありましたが、今年もそういった話が出ているわけですが、事務局サイドでこんな事例があったというような、細かくお話しをしてあげることも必要ではないかと思いました。より説得力のある情報を出してあげる。あるいはそれを想定して、どなたかに発言をしてもらおうということなど、セッティングしていくことが必要ではないかと思います。学校教育にしても同じことがありますけれども、具体的な事例をより多く出して、様々な質問に対して納得いただけるような形につながるのではないかと思います。

田中委員長

確かに生涯学習分野に入ったときに発言が少なくなったということがあったので、今思えば若干抽象的だったかなと反省無きにしも非ずで、なかなか手を挙げにくい、あるいはどこからどう聞いていか分からなかったのかなという印象を持ちました。

門屋 委員

参加する方がどちらかというと学校関係者、PTAにしても、学校からみるボランティアの方が多いように思いました。とすれば、この方々との懇談を別に設けるのはどうなのか、お年寄りで過去にいろいろ活動してくださった方、あるいは教員であった方のご意見は大変参考になることがいくつかありましたが、一般の父兄、市民

の方の参加がなかなか出てこないというのを課題としてほしいことと、学校関連については別なものをやってもいいのではないかと感じました。これは単なる感想ですので、どれがいいのかは今後の検討だろうと思います。

田中委員長

確かに門屋委員が言われたように、学校関係者がかなり多かったので、一般市民の方から見ると少し違和感があったかもしれません。別に意識してやっているわけではないのでしょうけれども、むしろこれは学校関係者との懇談会ですと言ってしまった方が分かりやすいかもしれません。もっと一般の保護者、地域住民の方々と懇談ができる場がないものかなと思いました。もちろん広報等いろいろやっているのは分かるのですが、更に方法を考えてもっと参集できる形については課題の一つと感じました。

市之川委員

やはり参加者については学校関係者が多く、過去に学校ボランティア、スポーツ推進委員など、何らかの係わりのあった方が関心を持っていたと思います。今後もこういう形であれば、そういった方が意見を述べる場としてお集まりいただくことになろうと思います。テーマについては前年度と比較して、1部、2部、3部と我々も工夫していますし、開催時間も昼間を入れたのも良かったと思いますし、それでもこうしてほしいという意見があるのでしょうけれど、開催時期については適切という方がほとんどで、雪のない時期や繁忙期を外すことを考えると、冬や秋は難しいでしょうから、やはり11月後半がいいのかなと感じました。

田中委員長

この時期が一番適切だというのはなかなか難しく、今回、日曜日昼間の時間帯を設定させていただいても、それでもなかなかという話があるわけで難しいなと思いました。それでも、検討していただければとしか言いようがありません。私から1点だけ、意見を出していただける会場とそうでない会場があって、教育委員がついつい時間を超過して話してしまったところもあったのですが、順序立ての問題もあるのかと思います。自由意見を先にやってほしいという話もございましたし、先にそちらをやってから、通常のテーマに移るやり方など、スタイルの問題ですから、いろいろ検討されたらいいかなという気がします。4回やらせていただいてそれなりの成果はあったのではないかと思います。127人という人数が多いのか少ないのかは判断しなければならないことはありますが、市民の方と教育を自由に議論できる場が定着したことだけでも、まずは意味があると思います。次年度以降も検討させていただければと思います。

田中委員長

他になれば、質疑を終結し本件を終了します。

その他(3)平成24年度全国学力・学習状況調査についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

それでは、お時間をいただきまして、平成24年度全国学力・学習状況調査の本市の結果につきましてご報告させていただきます。このことにつきましては、既に委員の皆様お一人お一人にはご報告させていただいたところでありますけれども、本日はお手元の資料を基に結果のポイントなどに絞って改めてご説明させていただきたいと思っております。平成23年度と同調査につきましては、東日本大震災の影響があり全国的な調査の中止が決まりました。北海道における学力等調査として実施いたしましたことから、全国的なデータはございませんでしたけれども、今年度は抽出校ながら全国調査も復活し、全国的なデータとの比較もできるようになっております。資料1ページから2ページにかけては、調査の概要をまとめてお示ししておりますけれども、今年4月17日火曜日に実施されたこの調査には市内から小学校6年生1,382名と、市内中学校3年生1,412名が参加しております。なお、花園小学校につきましては、インフルエンザによる学年閉鎖により、期日を遅らせて実施いたしましたので、成績の集計には含まれておりません。本市児童生徒の学力の調査結果についてでありますけれども、3ページ目をご覧いただきたいと思います。児童生徒の学力の状況の概観を記載しております。これまで継続的に実施されている国語、算数、数学に関しましては、今年度の調査における帯広市の児童生徒の学力の状況を大きく見ますと、小学校では平均正答率の全国との比較では、各教科・科目とも、概ね-4から-5ポイント程度となっております。北海道との比較では、各教科・科目とも同程度であります。数値の単純比較では、活用力や応用力を問うB問題で全道平均以上となっており、基礎的な内容を問うA問題では、全道平均をわずかに下回っております。中学校では、平均正答率の全国との比較では、国語Bで初めて全国平均を上回ったほか、その他の各教科・科目とも概ね-1ポイント程度となっております。北海道との比較では、各教科・科目とも同程度でありますけれども、数値の単純比較では、わずかに全道平均を下回った国語Aを除き、他は全て全道平均以上となっております。また、小中学校ともに、全教科・科目におきまして、市内の学校間の平均正答率のばらつきは昨年度と比べても差がすべて縮まっております。今年度初めて実施されました理科につきましては、小中学校ともに北海道と同程度ということが分かっております。4ページのグラフでは、小学校における各教科・科目の正答数の分布を表しております。ここから読み取れることとして、全国の正答数の分布、折れ線でございますが、これを基準に仮に下位層約25%という視点で見ますと、その中に入る本市の児童の割合が全国よりも少し多いということが分かっております。5ページのグラフについては中学

校の状況ですが、概ね全国と同じような状況になっていることが分かります。次に7ページの道内市町村の分布から見る現状についてであります。(1)のグラフは北海道の市町村のそれぞれの平均正答率の分布状況を柱状グラフで表したものです。柱の上に示されている数字はその柱の中に位置する市町村の数を表しております。また、右の柱ほど平均正答率が高いことを表しております。(2)のグラフは市内の平均正答率の散らばりを表しております。正答率の差が大きいほど、グラフの上の方に点がつくこととなります。従いまして、理想はより右側で、かつ、下の方に位置することとなります。線上にあるところは差が0ということですから、学校数が1、2校というような小さな自治体かと考えられます。(3)のグラフは、これまでの調査における市内平均正答率の散らばりの推移を表しております。最高の成績を残したところから最低の成績を引いた差でありますけれども、年度により調査問題が異なりますから、一概に比較はできないのですが、どの教科・科目においても、これまでで一番差が縮まってきていることが分かります。続きまして15ページ、児童生徒の質問紙による学習状況の概観であります。学習に関する状況としましては、望ましい傾向としまして、小中学校ともに主体的な学びの場である総合的な学習の時間への積極性や学ぶ意義の理解が高い傾向、先日サミットを行なったところですが、いじめはどんな理由があってもいけないことだと感じている児童生徒が多い傾向などが上げられます。また、逆に課題となる点は、小中学校ともに、1日に3時間以上テレビやビデオ、DVDを見たりする児童生徒が多い傾向等が上げられ、ほぼ毎回、課題となっている点でございます。次に16ページ、学校への質問紙から見てくる学力向上の取り組みにつきましては、朝読書の取り組みや習熟度別指導や少人数指導などの取り組み、長期休業期間中の学習サポートの取り組み、家庭学習の取り組みなどは、昨年度と比較すると改善が図られておりますが、家庭学習、宿題の働きかけをよく行ったという学校の割合や平日の放課後等を利用した補習的な学習サポートを実施している学校の割合は、帯広市の中では改善が図られてきていますけれども、全国と比べるとまだ低い特徴が見られました。こうした学力に関する全国的な調査は、昨年 of 北海道の調査を含めて6回目となりました。北海道では平成26年度の調査までに、全国平均を上回るという目標を立てております。本市もそれに基づいて、教育委員会、各学校、それぞれの年度の結果を踏まえて改善に向けて取り組みを進めており、少しずつその成果は表れてきていると考えております。しかし、テストを受ける子どもたちは毎年変わるわけでありまして、一人一人の児童生徒にとっては、毎年毎年が生涯の中でかけがえのない1年でありますことから、今後も意識を緩める

ことなく、こうした客観的なデータをもとに、学校における指導方法の工夫・改善、PTAと連携した家庭学習の充実等に努め、継続的に学力向上の取り組みを進めてまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

田中委員長
伊藤 委員

これから質疑に入ります。

感想と質問を交えてお話しさせてください。まず、感想ですけれど、全国学力テストに係わって数年前から進められ、帯広市の特徴、課題等が浮き彫りにされ、その課題解決のためにプロジェクトチームを設定し、現場の先生方に様々な形でアプローチされたこと。それが徐々に効果が出てきていると思えば嬉しいことだと思っています。そこで2点質問させていただきます。学力そのものは様々な教科、教育活動を通して学ばれていくわけですが、特に今叫ばれている言語活動の力をつけるという観点から、読書に関する活動は非常に重要な働きをするのではないだろうかと思います。それを受けて各学校では朝読書の時間を設定し取り組んでいるのは非常に効果があると思います。例えば、私なりに考えたところ、朝読書の本は個人で持ち込むのか、学校として設定して順次読んでいくのか。例えば、教科書に出てくる様々な作者の本を数点揃えて、興味のある子どもたちが読んでいくという方策も1つではないかと思います。この作者は別な作品ではどんなことを書いているのかということも学ぶのに必要かと思しますので、そういった配慮がなされているのかどうかということが1点と、もう1つは、家庭での学習に関しては難しいところもあると思いますが、学校と家庭が連携して、学校がリードして学び方を身につけさせる方策を講じているのだろうと思いますけれど、学び方について家庭に呼びかける方策などの具体例があれば、お知らせいただければと思います。

村松 室長

ただ今お話しがありました学力向上に向けた取り組みの1つの言語活動の充実については、各学校では学習指導要領が変わった中で、校内研修を中心に取り組んでいるところです。今ご質問にありました読書の取り組みについて、各学校で本を指定して読ませているという部分で子どもが把握しているところではございません。子どもたちが興味関心を持つ中で、子どもたち自身が文学作品を含めた本を持ってきて読み重ねていきます。しかしながら、先ほどの教科書とリンクしたことが行なわれているのかということにつきましては、図書館にある作品の紹介などを通して、子どもたちが持ってくる場合もありますし、図書館の本を借りて朝読書に利用している学校もございます。学校の中で図書館の本をシャトルのような形でボックスに入れて各学級に回している中には、国語の教科書に使われるような文学作品の作者が含まれているということは把握しております。そういった面から朝読書の取り組みは、言語活動の充実を含めて教

養を高める意味でも非常に重要だと思っておりますので、現在すべての小中学校で朝読書については取り組まれておりますので、今後も支援してまいりたいと考えております。2点目の家庭学習の具体的な取り組みについては、各学校で家庭に帰った後の学習の時間のめやす、学年プラス1時間、学年プラス30分というようなことを具体的に家庭にお知らせしたり、国語であれば、漢字の丸つけをお子さんといっしょにやっていただくとか、低学年であれば書き順を保護者と一緒にやっていただくという取り組みもやってございます。各学校で家庭学習の手引きというものを最近出しております。その中で具体的に低、中、高学年の取り組みの状況を書いて、保護者の方をお願いをしております。また、今年度、帯広市校長会で学力向上プロジェクトチームを立ち上げております。リーフレットを全家庭へ家庭学習と学校の学習を関連づけながら、子どもたちの学力向上へということで家庭学習の働きかけの呼びかけを今年度新たに行っているところであります。以上です。

伊藤 委員
門屋 委員

ありがとうございました。

学校間格差があると書かれておりましたが、成績と学校間格差に関して言えば、どんな要因が学校間の成績に関係しているのか、仮説か何かを立てられているのかどうか。予測するのは環境要因だと思うのですが、教員も含めた人環境があると思うのですけれど、学校間格差を生むような条件があるのかどうかということが1つと、今のお答えにもあったのですけれど、家庭、父兄に期待するのは結果的に過干渉助長というか、最近話題になっていますけれど、過干渉が子どもたちの成長に悪い影響を与えていると言われていて、私はそれが自立化を邪魔していて、創造的、生み出す力を含めて、人間の未熟性を結果的に招いている。30、40年前から私自身が自我の未熟性はそういう形で生まれてくる。日本の社会の中で未熟性が社会的な問題の中で大変困る状況を生み出すだろうと、たびたび申し上げていた時代があるのですが、実はそれが現に今の大人や社会を作った。モラトリアム社会で話題になった小此木啓吾さんたちが言っていた時代に、私が学んだことを言っていた時期があります。その延長線上にまだあるのではないかと、結局は求めてしまうことが起こり、求めるということはそこに干渉が発生しているということはないのか、お話しを聞かせていただければと思います。

橋場企画監

非常に難しい問題でありますので、的確にお答えできるかどうか分からないのですけれど、1点目の学校間格差ではなくて、我々は学校間差という言い方をしています。これについては様々な要因がもちろんあると思います。学校の規模等により、人数が少ない学校ですと、点数の上下がその年度によって激しいということがございますし、学校の規模、学校が行ってきた研究教科、研究テーマがあ

り、国語、あるいは算数に力を入れてきている学校などそういった違いもございます。調査の2回目に保護者に対する追跡調査を行ったときに、学力と経済力が関係していることが明らかになったということがございます。地域性や総合的に様々な要因が係わっているだろうと思っております。ただ、私たちとしては、第一義的には学校教育の責務を果たすことが大事だと思っておりますから、そういう視点で今後も差をできるだけなくしていきたいと考えております。それから、過干渉についてですが、確かに発達段階があります。小学校6年生、中学生になってまで、保護者が丸付けをすることにはならないと思いますし、例えば、家庭で子どもたちが帰ってきた時間にテレビがなんとなく付いている。いつまでもテレビの音だけがガンガン聞こえているという状況を改善してもらおうとか、朝ごはんを作って食べさせていただくなどの家庭環境の働きかけが大事だと思っております。これも同じように追跡調査の中では、経済力には関係なく、本を常に周りに置いている家庭や美術館や図書館に連れて行った家庭のお子さんは学力が高いという結果が出ていました。そういう面でも家庭の協力が求められていると考えております。以上です。

門屋 委員
市之川委員

難しい問題です。

全国には届かないけれど、全道よりは改善されてきたのが多くて、それはそれぞれの学校の努力で、今年度限りではなくて今後も続くことを期待します。中学生は比較的いいですけど、小学生の基礎力が乏しいという印象があります。そこを改善しないと後でつまってくる感じがします。平均点を上げるには下位層をもう少し上げれば平均点は上がるので、かといってできるお子さんを蔑ろにできないので、そこで習熟度別というのがあると思います。1つお聞きしたいのは、各学校によっても違うと思うのですが、習熟度別は自主的にお子さんが自分のレベルを選んで行くのか、それとも、何か結果があって決められて行くのか。それが改善されたらまたクラス替えをするのか、どのようになっているのか分かる範囲で教えてください。

村松 室長

各小中学校で行なわれている習熟度別学習のクラス分けというのですけれど、すべての授業が習熟度分けではございませんが、生徒が躓きやすい単元に限って、習熟度別を取り入れることが効果的であるということで、市内の学校でも進んでいるところです。このクラス分けについては、今、市之川委員がおっしゃられたような形で、1つは定期テストなどを中心にしながらも、最終的には生徒自身に決めていただきます。判断材料として見える点数はありながらも、実際に自分がAのクラス、Bのクラスというのは本人が決めます。ただし、先ほどお話しがありましたけれども、途中でもう一度学び

直したいのでBのクラスへ行きたいということなど、中間に子どもたちの声を聞きながら、クラスを変えらるということ、子どもの意欲を育みながら、実際に子どもの学びのスピードに合った習熟度の授業をしている学校が多いです。小学校はテストというより、子どもと面談をしながら子どもの希望で決めます。また、途中で先生が子どもと話しをして、子どもの実態にあったクラスをなるべく選択していくということが実際に進められており、そこがポイントになると思います。以上でございます。

市之川委員

そうしますと、機械的に成績で分けられるのではなくて、生徒の自主性も取り入れられているようですので、例えば、生徒同士のプライドとか、抵抗感などはあまりないということですね。

村松 室長

この習熟度別をスタートするとき、一番先生方が心配している点はその点です。保護者に対しての説明をしっかりと行い、子どもたちにも学習内容を説明していく。しかしながら、到達する目標は同じであって、そこへたどり着くまでの方法が少し違うということです。学習内容は基礎基本含めて到達する最終目標は同じですので、そこまでいくまでに、きめ細かくやる部分と応用を重ねながらやる部分と区別しているということです。私どもも正直心配した部分はありますけれど、子ども同士のトラブルやそれが原因でいじめに発展したという報告は一切受けておりませんし、逆に生き生きと学習に取り組んでいるという報告を受けております。

市之川委員

分かりました。

田中委員長

私も1点だけ教えていただきたいのですが、小学校の国語B、中学校の国語B、応用力の部分では全道平均より少し上に行っていて、小学校の国語Aに関してはまだ弱いという結論のようですが、それと直接絡むかどうか分からないのですが、ここ数年の朝読書の活動はかなり大きな影響を与えているのではないかと思います。ところが、課題となる傾向のところでは、文章を書くことはあまり得意ではない。不得手だと思っている中学生が多いということです。謙遜かもしれないし、何でも得意だと書くのは嫌だということもあるかもしれませんが、それにしても、そういった傾向があっても、なおかつ、先ほどのジュニア文芸では小説68編もの作品が出てくるということはどう捉えたらいいのか実は先ほどから考えておりました。基礎力は一生懸命勉強していけばいいだろうと思います。むしろ応用力が非常にいい形で出ているのであれば、それを更に発展、成長させていくことができるかが大きなポイントだと思います。それを踏まえて、朝読書について先ほど伊藤委員もおっしゃっていましたが、子どもの自主性は大事ですけれども、指し示す何かは必要なのではないかという思いがあります。伊藤委員のお話も教科書とリンクさせてということではなかったかと思うのですが、もっと詰

めた形で研究されたらいいのではないかと考えております。せっかくの可能性が少し見えているのであれば、指し示していった方がいいのではないかと思います。与えられた時間というのは決して多いわけでもないし、要はいかにどういう本と出合うかという話なので、たくさん読めばいいというものでもないと思うので、学校の先生の思いにも係わってくると思うので、ぜひ、検討していただければと思います。そのあたり何かございますか。

橋場企画監

直結するかどうか分かりませんが、活用力や応用力を見るBで、ある程度高い、優れているということについては、これまで、それぞれの学校で、子どもたちと係わり合いながら、学び合う、意見を述べ合う、自分の環境を述べ合うという授業づくりを行なっていて、公開研究会などもなされてきております。帯広の学校の授業の良さがこういう形で少し表れているのではないかと思います。ただ、今、私たちもそうですけれど、子どもたちもものを書くこと自体が少なくなってきました。漢字を書くこと、文章を書くことが二極化してきていることがあろうかと思います。だからこそ、学校教育の中で40字以内に書きなさいとか、条件を定めて書かざるを得ない状況を作っていく、子どもに確かな力をつけていくことが大事だと思います。特に書くということについては示唆が必要だろうと考えております。読書についても、朝読書の時間は10分ほどしかないものですから、なかなか難しいのですけれど、先ほどお話しにございました、教科書の作者のそのほかの作品というのは、新しい国語の指導の中でも、かつては物語を一生懸命読み砕いて、人物の気持ちなどを追求するような道徳の授業のような授業がたくさんありましたが、最近は読書を広げていくという意味から、例えば、宮沢賢治の作品を勉強したときに、宮沢賢治の他の作品を読んでもよようと読書を広げることに主眼を置いています。そういったことを取り入れながら、日常的な読書活動に広げていくことが求められていることだと考えております。以上です。

田中委員長

すみません説明不足だったのですが、読書力にどうやって文章力が比例するのかということがあったので、多分、何かきっかけや示唆が次の展開を呼ぶのではないかと考えたものですから、質問させていただきました。

伊藤 委員

もう1つだけなのですが、学力に関しては良好な状況になってきているということは様々な要因があって、指導法等含めて向上していると思う一方で、良好な状況になっているということは、子ども同士の人間関係が非常に良くなっているという感じもいたします。要するに各教科の勉強が好きだということは、友達があって、また好きだとも受け取ることもできます。望ましい傾向の中に、いじめはどんな理由があってもいけないことだと感じている子どもが多い

ことですが、過日、初めていじめサミットに参加させていただいてそれを強く感じました。児童会長、生徒会長が他者理解に基づいた様々な活動を自主的に行っている。それが非常に機能しているように思います。それぞれの活動が各学校において各学級に浸透し、人間関係が更に良好になっていることも伺うことができますので、いじめサミットは1つの方法なのですが、更に実のあるものにしていただきたいと同時に、質問なのですが、付き添いに来られた先生がこの後どのような形で進められているのか、分かっていたらお知らせいただきたいと思います。

村松 室長

サミットの付き添いの先生の役割だと思いますけれども、そこに来られている先生方は児童会、生徒会担当の先生方です。他の学校の様々な新しい取り組みを基にしながら、帰って自校の児童会、生徒会の新たな取り組みと重点みたいなのを子どもたちと考えて進めているという話を聞いております。結果的にその取り組みが帯広市の柱として、サミットを通すことによって、市全体の取り組みとして、今、着実に成果を上げてきているのではないかと私どもは分析しております。

伊藤 委員
田中委員長

ありがとうございました。

他になれば、質疑を終結し本件を終了します。

その他（4）今後の事業予定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

早川 所長

教育研究所の1月の事業予定についてご説明いたします。1点目は冬季教員研修講座でございます。1月7日から11日までの5日間の間に10講座設けまして、体験、実技、演習を中心とした講座を開催し、市内学校教育の充実を図るものでございます。2点目は第2回校内研究推進協議会を1月29日14時から、校内研究の充実に向けた各校の取り組みや今日的な教育課題について協議する場所を設けまして、情報交換するとともに教職員としての専門性と資質の向上を図ることを目的として行うものでございます。

井上 場長

学校給食調理場からは、学校給食週間についてお知らせいたします。25年1月21日から25日までの1週間が学校給食週間ということで、同時に姉妹都市の大分の交流給食を実施いたします。その期間の22、23日には市民試食会を両日とも定員24名で開催予定です。1月24日は給食記念日になりまして、大正小学校で児童との交流給食会を予定してございます。市長、教育委員の皆様のお出席を予定してございますので、よろしくお願いたします。

西尾 主幹

スポーツ振興室から3件行事をご紹介いたします。最初は森のクロスカントリースキー初心者講習会でございます。1月6日日曜日8時45分から帯広の森コースに特設コースを作りまして、はぐく一むを拠点としまして、冬季スポーツの普及振興と初心者・高齢者・

障がい者の方々の健康維持増進のためのクロスカントリースキーの初心者講習会でございます。次に初心者スケート教室、1月22日から25日の4日間15時から17時まで、明治北海道十勝オーバルと帯広の森第2アイスアリーナで行います。ほっとドリームプロジェクトの底辺拡大事業の一環としまして、小学校低学年と帯広市に転入してきた児童を対象としたスピードスケート教室を行います。続いて、市民クロスカントリースキーツアーでございます。1月27日日曜日、7時45分から16時まで、上士幌町ぬかびら湖タウシュベツ橋梁周辺特設コースに行きまして、冬季スポーツの普及振興と健康維持増進のためのクロスカントリースキーツアーを行います。以上です。

鈴木 課長

文化課からご説明いたします。帯広市民劇場でやっていただいております、邦楽舞踊無料体験教室についてご案内いたします。1月11、18、25日、2月8日19時から21時まで帯広市民文化ホールにて、日本舞踊、箏、尺八、長唄三味線のジャンルで無料体験教室を行います。各4回ずつ練習して最終的にはステージで発表するものです。例年やってございますが、尺八など難しいものから、応募者が少ないということもございますが、ぜひ、子どもでも大人でも結構でございますので、参加していただければと思います。

吉田 館長

図書館から事業を4件ご案内申し上げます。今年で35年目になります、十勝童話会主催のおはなし会を1月5日土曜日13時30分から15時30分まで開催いたします。2つ目は、毎年200人近い子どもたちが集まる帯広図書館友の会主催の冬休み子ども図書館のつどいが1月10日11時から12時まで、ジョナサン座の方をお招きして事業を行います。3つ目は、帯広畜産大学図書館と帯広市図書館の連携事業で、帯広畜産大学から動物の骨を持ってきていただいて、組立を体験した後、その動物について図書館の資料を使って調べるという事業、ほねほねサイエンス授業というのを1月11日13時30分から行います。4つ目、近年、図書館見学など来館する小学生が多くなりまして、図書館の職員だけでは十分に館内を案内することができない状況になってきたものですから、図書館ツアーコン養成講座、案内をしていただくツアーコンダクターを養成しようというものです。1月16日11時から12時まで実施いたします。

北沢 館長

百年記念館の事業は4件ございます。1つ目は、ロビー展、楽しくデッサン教室・版画教室の作品展でございます。11月に当館で開催しました教室の生徒さんの作品を展示するものでございます。次に31回郷土美術展でございます。開館以来、十勝の皆さんの作品を公募し展示するもので、1月11日から27日まで開催いたし

ます。12月23日まで作品を募集しており、例年100点前後集まるものでございます。それから、ロビー展を1月16日から27日、昭和ナツカシ館さんと共同企画で昨年に続きまして、ゲロリからはじまるスケートの歩みということで、スケートの歴史を実物とパネル、写真などで紹介するものでございます。26、27日には記念館の前庭に特設リンクを作りまして、ゲロリの体験の計画もでございます。次ページになります。1月19日、博物館講座アイヌの人たちと動物ということで、当館の副館長が講師になりまして、エゾシカ、タヌキなどの動物について、アイヌの人たちとどう関わっていたのか紹介する講座を開催します。以上でございます。

高橋 園長

動物園から2つご案内させていただきます。1つ目は、成人の日のイベントとして、1月14日成人の日にちなみまして、12日から14日の3日間、新成人の入園料を無料にするものです。また、3日間、動物の健康状態にもよりますが、帯広動物園で生まれ育ち今年20歳を迎えるゴマフアザラシとの新成人との記念撮影も予定しているところでございます。2つ目、雪中ジャンボかるたとり、お正月の遊びとして親しまれているかるた大会を雪の上で行うものでございます。北海道の自然、生きもの、環境について学べるかるたを使ったかるたとりでございます。以上です。

田中委員長
各 委 員
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了いたします。

その他（5）寄附受納についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

野原 課長

企画総務課の寄附4件についてご報告いたします。1件目、帯広市立栄小学校、開校40周年記念事業協賛会様より、屋内運動場の校歌校訓、体育館山台一式、36万円相当を栄小学校の教育環境の一層の充実を図るためとして、11月17日付でご寄附いただいております。2件目、帯広市立大正小学校、開校40周年記念事業協賛会様より、自転車小屋1棟、テント7張、校内敷地のLED街路灯4基、258万5千円相当を大正小学校の教育環境の一層の充実を図るため、11月25日付でご寄附いただいております。3件目、十勝道路株式会社様から、11月17日付で袋詰焼砂10kgを500袋、100万円相当を教育環境の一層の充実を図るため小学校17校分のご寄附いただいております。最後に帯広市立豊成小学校PTA様から、11月29日に小型ショベル90万円相当を豊成小学校の教育環境の一層の充実を図るためとしてご寄附いただいております。以上です。

鈴木 課長

文化課から寄附3件ご報告いたします。1件目、11月13日に地域の文化振興に役立てるためとして、100万円をご寄附いただい

ております。寄附者の意向により非公開としてございます。2件目、11月16日に表千家同門会釧路支部帯広地区様から10万円ご寄附いただいております。今回で23回目となり総額230万円となります。3件目、11月18日に宗教法人真如苑とかち支部様から20万円ご寄附いただいております。今回で5回目となり総額100万円でございます。以上です。

吉田 館長

図書館から寄附5件ご報告いたします。帯広市内、〇〇〇〇様から11月6日に18万円いただいております。図書整備基金寄附金として3月議会に補正させていただきます。今回3回目で総額54万円となります。2件目は寄附者の意向により非公開、11月13日に100万円いただいております。図書整備基金寄附金として3月議会に補正させていただきます。3件目、同じく寄附者の意向により非公開で11月14日に10万円いただいております。図書整備基金寄附金として3月議会に補正させていただきます。今回3回目で総額30万円となります。4件目、北海道社会保険労務士会十勝支部様から11月23日にビジネス関連図書16冊いただきました。この寄附は今回で5回目となり、最初に寄附をいただくときに5回総額25万円相当というお約束をいただいておりますので、今回で最後ということでございます。最後に札幌市在住の〇〇〇〇様から11月27日に20万円をいただいております。図書整備基金寄附金として3月議会に補正の予定です。今回で12回目となり総額187万2,740円となります。以上です。

田中委員長
各 委 員
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

事務局からその他説明事項はありますか。

事 務 局
田中委員長

ありません。

ここで会議の進め方についてお諮りいたします。次の日程第5の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第2号により、秘密会にしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのとおり取り扱いたします。

これより会議を秘密会といたします。

(以下非公開)

田中委員長

事務局からの説明は以上であります。この際、各委員から他に
ご意見、ご質問等があればお受けいたします。

各 委 員
田中委員長

ありません。

別になければ、本日予定されておりました案件はすべて終了いたしました。

以上で平成24年第22回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。